

研修人材育成モデル

育成したい人材に合わせた4つのモデルを御案内しますので、10ページの研修モデルプランや11ページから掲載のナビゲーションマップと合わせて受講する際の参考にしてください。

※特定業務（窓口業務）担当者、政策立案者等に対応した研修も御用意しております。こちらは担当業務ごとに求められる成果が異なるため、目的・目標を一律に設定することは適切ではないと判断し、本冊子では個別の記載を行っておりません。

一般職員	
目的	業務上のデジタルに関するコミュニケーションを円滑にするため、必要なリテラシーと基礎知識を修得すること。
目標	・ITを効果的に活用し、業務上の課題発見および解決に繋げるための知識を修得する。 ・コンピュータの構成、各構成要素の働きを理解し、自身のコンピュータで不具合が発生した場合の状況を説明することができる。 ・インターネットの脅威を理解し、個人でできるセキュリティ対策を理解する。 ・自治体DXとは何か、概要を理解する。

DX推進担当者	
目的	ITに関する最新技術や動向を知ることにより、行政事務における課題解決にどう活かせるかを考え、導入イメージが作れるようになること。
目標	・周囲を巻き込んで問題解決する方法を身に付ける。 ・情報化政策を説明することができる。 ・BPRの考え方、取り入れ方の一例を説明することができる。 ・AI・RPAの活用方法を想像し、説明することができる。

情報システム担当者	
目的	庁内の既存システムを安定稼働するために必要な知識を修得し、企画・開発・運用・保守という情報システムのライフサイクルに従って、適切に運用できるようになること。
目標	・自治体DXの実現における国の動向や情報システムの動向を説明することができる。 ・インシデント発生時に自発的な問題解決に向け行動することができるようになる。 ・情報システムのライフサイクルを理解し、説明することができる。

情報セキュリティ担当者	
目的	安全で安定した行政サービスを提供するために必須となる情報セキュリティについて、その動向を知り、対策を講ずることができるようになること。
目標	・最新のセキュリティの脅威について説明することができる。 ・情報セキュリティポリシーの概要を説明することができる。 ・情報セキュリティマネジメントの実施サイクルを説明することができる。